

2026年、第51回衆議院議員総選挙「医療、社会保障等についての政見アンケート」の結果

奈良第2区 第51回衆議院議員総選挙（1月27日公示、2月8日投票）

（奈良県保険医協会・作成/2026.2.4.）

設問		氏名（敬称略）	たかいち さんえ 高市 早苗 (自由民主党)	いけだ えいこ 池田 英子 (日本共産党)
質問 1	<p>マイナンバーカードを健康保険証代わりに使用する「マイナ保険証」への一本化（保険証の廃止）が実施され、昨年12月2日に從来の保険証は失效しました。しかし、受付でのトラブルは解消せず、マイナ保険証の利用率は低迷し直近の公表分（11月）でも4割台にとどまります。</p> <p>国民の不安や医療機関窓口の混乱を防ぐため、從来の保険証を復活させることについてどうお考えですか。</p>	賛成 反対		賛成
質問 2	<p>保険診療で医師が処方する医薬品のうちOTC類似薬（市販薬と成分が同じ医薬品）について、通常の一部負担とは別に、新たに追加の患者負担を求める方針を厚生労働省が示しています。</p> <p>保険診療でのOTC類似薬への患者追加負担の導入を撤回することについてどうお考えですか。</p>			賛成
質問 3	<p>国は昨年に高額療養費制度の負担上限額の引き上げを計画したものの、患者や医療者をはじめとする国民の声に押されて凍結しましたが、このほど内容を見直し、改めて引き上げ方針を示しました。すでに負担は重く、むしろ上限額引き下げこそ検討すべきところです。</p> <p>高額療養費制度の負担上限額引き上げを撤回することについてどうお考えですか。</p>			賛成
質問 4	<p>奈良県では全市町村が18歳までの子ども医療費助成制度を実施しています。他府県の自治体も多数が同様の制度を実施しています。</p> <p>国の制度として子どもの窓口負担を無料化することについてどうお考えですか。</p>			賛成
質問 5	<p>診療報酬は長期間低く抑えられ、加えて物価高騰で経営難の医療機関が続出、地域医療の存続が危ぶまれています。政府は2026年の診療報酬改定（本体）で3%余の引き上げ方針を打ち出したものの、解決には到底及ばず大幅な引き上げが切望されています。</p> <p>診療報酬の大幅引き上げについてどうお考えですか。</p>		回答がありませんでした。	賛成
質問 6	<p>消費税10%の負担は国民生活にも景気にも重い負担です。日本経済の再生のためにも、その軽減が強く望されます。</p> <p>何らかの消費税の税率引き下げ、あるいは廃止についてどうお考えですか。</p>			賛成
質問 7	<p>保険医療機関ではかねてより消費税の「損税」負担が問題です。その解決のため保険医療への消費税に「ゼロ税率」を適用することについてどうお考えですか。</p>			賛成
質問 8	<p>福島原発事故以降、原発の危険性が多くの国民の共通認識となりました。再稼働・新增設および老朽原発の延命使用をやめて「原発ゼロ」の実現へすすむことについてどうお考えですか。</p>			賛成
質問 9	<p>核兵器を非合法化し、廃絶と被爆者援護を掲げる「核兵器禁止条約」に日本は参加していません。核兵器禁止条約の批准、少なくともオブザーバー参加することについてどうお考えですか。</p>			賛成
質問10	<p>近年、防衛費の大幅増がつづき、政府予算の事実上の聖域となっています。それが、社会保障をはじめ教育・科学・農林水産・中小企業振興等の予算抑制の原因もあります。膨張し続ける軍事費の拡大をやめることについてどうお考えですか。</p>	賛成 反対 その他		賛成

※届出順で掲載しました。

※アンケートは、選択回答部分は2月3日を期限として回答をお願いしました。期限後の到着分もできるかぎり掲載することとしています。

※このほかに自由記述による回答も可能な範囲でお願いしました。記述回答は別に掲載します。